

生徒の
実態

- ・課題に対して当事者意識が乏しい → 「答えが出るのを待とう。」
- ・課題への意欲的な取組が少ない → 「一人で解くのは難しい。」

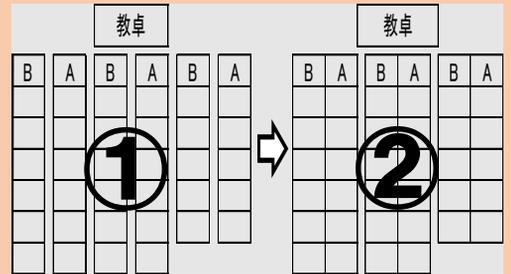
教師の願い

当事者意識を持って、課題に意欲的に取り組んでほしい

①個人学習

一次関数のグラフの傾きと切片の
近似値を求める方法の習得

“解の異なる課題を複数設定することにより、
一人一人の課題解決への当事者意識を高める。”

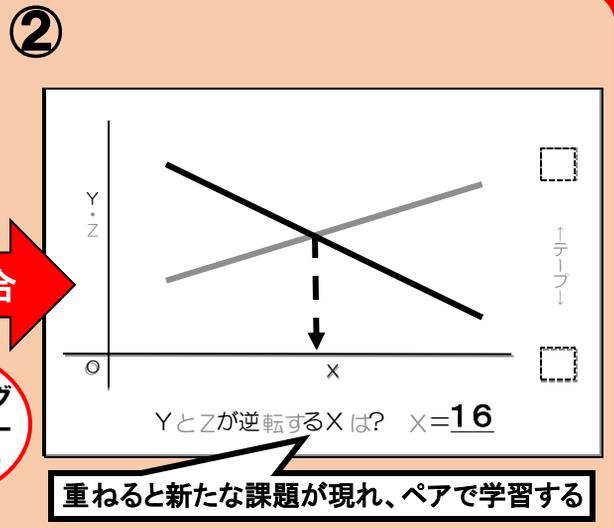
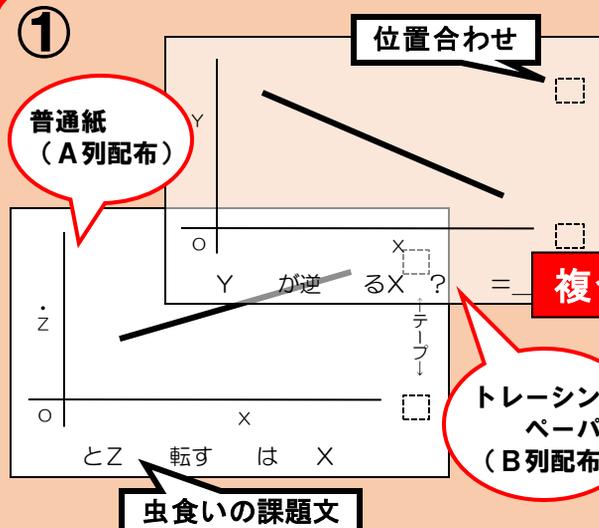


②ペア学習

①で習得した知識・技能を使って、

グラフの交点から情報を読み取る方法の習得

“トレーシングペーパーと普通紙でワークシートを作成し、二人で力を合わせて
解決する課題に取り組ませることで、ペアでの課題解決への意欲を高める。”



解法は同じだが、解は異なる
(解法を学ばないと解にたどりつかない)

自分の解だけではなく、相手の解も必要
(ペアで取り組まないと解決できない)

手立て…ワークシートの工夫とペア学習

目指す生徒像：当事者意識を持って、課題に意欲的に取り組む生徒

成果

- 一人一人が自ら課題を解決しないと次のステップに進むことのできない課題を設定することにより、当事者意識を高めることができた。
- ペア学習による話し合いにおいて、解そのものについてではなく、解法に言及する傾向が強くなり、意欲的な取組が見られるようになった。

課題

- 解の異なる課題を複数設定したため、個々に応じた解の正答が必要である。
- 生徒が身近に感じるような工業の事象に関する課題を設定することが必要である。